

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670600149号		
法人名	医療法人 互舎会		
事業所名	グループホーム はまなす		
所在地	鹿児島県 阿久根市 脇本 9093番地 2 (電話) 0996-75-0320		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年8月19日	評価確定日	平成21年9月12日

## 【情報提供票より】(21年 7月 27日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人	非常勤3人 常勤換算7.5人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,800 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有( ) 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(7月 27日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	3名	要介護2	5名			
要介護3	0名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	86.2歳	最低	73歳	最高	96歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人互舎会脇本病院	よしもと歯科
---------	-------------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医療機関に隣接して設置されており、医療面において24時間のバックアップ体制があり、入居者・家族は安心して暮らしている。家賃等が比較的 low で、利用し易いように配慮されている。職員は、馴染みの関係づくりを大切にしており、入居者と喜びや悲しみを共有し、質の高いケアを実践している。家族や地域との連携も図られ、共に支えあう関係が築かれている。益々の充実が期待できるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流については、運営推進会議等で話し合い、課題は改善している。
重点項目②	管理者・職員は評価の意義や目的をふまえて全職員で自己評価を実施し、自己評価を通じて家族等への報告や外出の機会など、具体的な改善に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	地域の住民や家族等の参加を得て運営推進会議を開催し、ホームの実態や利用者の状況を報告し、要望や意見を話し合っ、サービスの質向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	面会時は意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心がけたり、家族会や運営推進会議で意見や苦情等を聞く機会を設けている。出された意見や要望は職員会議で話し合い、質の向上に活かすように努めている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事の運動会やお祭り等に参加している。高校生の実習の受け入れや誕生会に家族や知人を招待するなど交流に努めている。地域に開かれたホームとして地域住民へ働きかけを進めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考え、家族や地域とのふれあいを大切に、その人らしく暮らしつづけることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、職員採用時に説明し、毎月の勉強会などで理念の具体的な実践に向けて確認し合い理念を共有し、日々のケアに取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区の地域行事の運動会やお祭り等に参加している。高校生の実習受け入れや誕生会に家族や地域の知人を招待するなど、交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義や目的をふまえて全職員で自己評価を実施し、自己評価を通じて家族等への報告や外出の機会など、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の住民や家族等の参加を得て運営推進会議を開催し、ホームの実態や利用者の状況を報告し、要望や意見を話し合っ、サービスの質向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りを持参したり、運営や現場の実情等の相談や報告をし、関係作りを積極的に行って連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを定期的に発行し、ホームの状況や入居者の暮らし振りを報告し、面会時には、個々の利用者の様子や健康状態などをきめ細かく伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は、意見や要望の言いやすい雰囲気づくりに心がけ、家族会や運営推進会議でも、意見や要望を表す機会を設けている。意見等は、職員会議で話し合い質の向上に活かすように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、やむを得ない異動の場合は、引継ぎの期間を十分に取り、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は交代で参加し、研修報告書を作成し、勉強会のとき発表し全員で内容を共有している。資格取得や研修参加のための勤務調整をして、職員を育てる取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会に加入し、研修や交流に参加している。お互いに意見交換等を通してサービスの質向上に活かしている。今後相互訪問も考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申込があれば、自宅や施設を訪問し本人や家族と懇談している。ホームの見学も勧め、ホームの雰囲気や職員に馴染めるよう工夫し、安定的な利用に移行している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護しているというより、一緒に生活している家族という思いで関わっている。夜勤時などは、入居者からいたわってもらったり、励ましてもらっている。野菜作りなど教えてもらうことも多く、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、入居者の思いや意向を把握することに努めている。家族の協力を得ながら、好きな事や生活歴など細かく把握して本人本位の支援を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスの前に本人や家族の意見や要望を聞き、主治医の意見を参考に、職員と話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスや3ヶ月毎のモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。家族と密に連絡を取り、希望や現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の母体医療機関の協力で、医療面において24時間の健康管理体制がある。家族と相談しての受診介助や買い物などの支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。母体医療機関との連携もあり、適切な医療受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、入院治療が必要になった場合は、医療機関に入院してもらうよう説明し、納得してもらっている。医療機関の選択は、主治医・家族と話し合い、終末期を支援している。		重度化した場合について、ホームの方針を示し、本人や家族・主治医、職員で共有していく事が求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切にすることを理念に掲げ、言葉かけや対応などを勉強会等で確認し合い、プライバシーの確保を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースで生活している。入居者の個別性を大切に体調に配慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は好みを聞いて、入居者と一緒に作っている。調理や盛り付け・片付けなど共に行いながら、食事が楽しみになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日は決めているが、一人ひとりの体調や希望を考慮し、ゆっくり・のんびりと入浴できるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花や野菜作り・草取り・洗濯物干し・取り入れなどの役割を持ち、力を発揮している。また本を読んだり、歌を楽しんだり、花見や餅つき会などを計画し、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気やその日の体調を見ながら、散歩や外気浴を支援している。木陰のベンチでお茶を飲んだり気軽に戸外に出かけられるよう工夫している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアをしている。職員の身守りを徹底し、入居者の自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練や消火訓練を実施している。併設医療機関との合同訓練や災害防止対策委員会に参加し、連携・協力関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は毎日記録している。献立や食材の鮮度など注意し、併設医療機関の栄養士にアドバイスを貰い栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく風通しも良い。居間にテーブルやソファを置き、テレビを見たりレクリエーション活動などで、くつろげるよう配慮し、ホームの中心として居心地の良い空間をつくっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から椅子やタンス・衣装ケースなどを持ち込み、思い出の写真を飾り、入居者が安心して居心地良く過ごせるよう細やかな工夫がされている。		

※  は、重点項目。